

スマート農業実証レポート(4) 茶 作業時間の削減、販売額増加を目指す 静岡県

2019年10月25日



フィールドサーバーのカメラは防霜ファンに設置

荒茶生産量日本一の静岡県が最新技術の導入で、作業時間の25%削減と荒茶販売額10%増を目指している。鍵となるのは省力化と品質のコントロール。2年間の実証で、荒茶価格低迷などの課題克服に挑む。

同県茶園は平野部から中山間地まで1万6500ヘクタールに幅広く分布。生産者の巡回・観察にかかる時間が多い。また、収穫の判断が生産者ごとにまちまちで、品質のバラつきによる価格低下が課題となっている。

実証では、作業記録ツールや乗用型自動防除操縦システムの導入、フィールドサーバーやドローンを使ったセンシングなどを取り入れ解決を目指す。10アール当たり

の作業時間48時間、10アール当たりの荒茶販売額43万円が目標数字だ。

特に今年は、実証コンソーシアムの構成員(株)マキノハラボクが中心となって、リモートセンシングに力を入れている。実証には三つの農業法人が参加し、圃場は合わせて127ヘクタール約600カ所。そのうち、カメラ機能を持ち、気温も測定できるフィールドサーバーを60カ所に設置を進めている。

実証先の一つである(株)ハラボク製茶農園の圃場は南北34キロに分散。同社の従業員は「事務所から車で1時間半かかる圃場もあるが、一番茶と二番茶の時期は摘採期見極めのため、ほぼ毎日見回っている。フィールドサーバーの設置で、回数が減るのは大きい」と期待を口にしている。

Category : 経営 技術 流通



◀ 飼料用米からの転換を提起 財務省、来年度農業予算で考え方

前年同月56円上昇 2019年産米9月相対取引 ▶

	編集部の一押し
	農業委員会関係
	女性農業委員
	農政の動き
	農政解説
	主張
	耕作放棄地対策
	鳥獣害対策
	新規就農
	女性農業者
	高齢者農業
	のうねん
	経営 技術 流通
	食育・地産地消
	地域活性化
	くらしと文化
	アグリとサイエンス
	東日本大震災

@gyoumu5さんのツイート

全国農業新聞さんがリツイートしました

全国農業図書
@nougyou_tosho

【先れ筋ピックアップ】鳥獣害対策最前線 2冊セット

豊富な事例には鳥獣害対策のヒントが満載！

「鳥獣種別対策編」(写真)と「シビエ・2次利用編」をセットでご購入される場合、特別割引価格でご提供！

お申し込みは都道府県農業会議またはHPから、Amazonでも取扱中。nca.or.jp/tosho/

全国農業新聞「STOP 鳥獣害」シリーズ〈事例集〉
鳥獣害対策最前線
～ 鳥獣種別対策編 ～



[埋め込む](#)

[Twitterで表示](#)

[トップページ](#)

[個人情報の取扱](#)

[購読のご案内](#)

[記事内容に関するお問い合わせ](#)

[広告掲載に関するお問い合わせ](#)

全国農業新聞

〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8

TEL.03-6910-1130 FAX.03-3261-5132

毎週金曜日発行 購読料700円(送料共)

ここに掲載されている記事・写真の無断掲載を禁じます。著作権は全国農業新聞に帰属します。

Copyright © 2020 Zenkoku-Nougyou-Shinbun. All rights reserved.

